

# めぐみイエス・キリスト教会

2019年9月22日(日) 第四主日礼拝  
週報「通算第474号」



2019年標題聖句

第Ⅱ ペテロ1章10節

《ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまづくことなど決してありません。》

|           |       |               |
|-----------|-------|---------------|
| 第一礼拝      | 毎週日曜日 | 午前10時～11時     |
| 第二礼拝      | 毎週日曜日 | 午後6時～7時       |
| 聖書の学びと祈り会 | 毎週水曜日 | 午後6時15分～7時15分 |

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2019年9月22日 第四主日礼拝  
第一礼拝 午前10時 第二礼拝午後6時  
司会 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん  
◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌341 「恐れなく近寄れ」 p. 542

【交読文】 No.42 詩篇第130篇 p. 912

【賛美Ⅱ】 新聖歌467 「世の終わりのラッパ」 p. 752

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.16 「神の都へ」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書19章23節～26節(新約p. 202上段)

【祈 禱】

【説 教】 《くじびきと母マリヤ》 鈴木 竜実 牧師

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ヨハネの福音書19章23節～26節)

19:23 さて兵士たちは、イエスを十字架につけると、イエスの着物を取り、一人の兵士に一つずつあたるよう四分した。また下着をも取ったが、それは上から全部一つに織った、縫い目なしのものであった。

19:24 そこで彼らは互いに言った。「それは裂かないで、だれの物になるか、くじを引こう。」それは、「彼らは私の着物を分け合い、私の下着のためにくじを引いた。」という聖書が成就するためであった。

19:25 兵士たちはこのようなことをしたが、イエスの十字架のそばに

は、イエスの母と母の姉妹と、クロパの妻のマリヤとマグダラのマリヤが立っていた。

19:26 イエスは、母と、そばに立っている愛する弟子とを見て、母に「女の方。そこに、あなたの息子がいます。」と言われた。

### ●ポイント1.「彼らは私の着物を分け合いくじを引いた」預言とは？

※詩篇22篇13節～18節「指揮者の為にダビデの賛歌」(旧約p.848下段)

### ●ポイント2.「最初のアダム」と「最後のアダム」

※第Iコリント15章45節「使徒パウロの理解から」 (新約p.313上段)

15:45 聖書に「最初の人アダムは生きた者となった。」と書いてありますが、最後のアダムは、生かす御霊となりました。

※創世記3章7節～11節「善悪の知識の木の実を食べて」(旧約p.4上段)

### ●ポイント3.「主の母マリヤ」とは？

※ヨハネの福音書2章1節～4節「最初のしるしの奇跡」(新約p.159下段)

2:1 それから三日目に、ガリラヤのカナで婚礼があつて、そこにイエスの母がいた。

2:2 イエスも、また弟子たちも、その婚礼に招かれた。

2:3 ぶどう酒がなくなった時、母がイエスに向かって「ぶどう酒がありません。」と言った。

2:4 すると、イエスは母に言われた。「あなたは私と何の関係があるのでしょうか。女の方。私の時はまだ来ていません。」

※マタイの福音書27章55節～56節「十字架から離れて」(新約p.56上段)

27:55 そこには、遠くからながめている女たちがたくさんいた。イエスに仕えてガリラヤからついて来た女たちであった。

27:56 その中に、マグダラのマリヤ、ヤコブとヨセフとの母マリヤ、ゼベダイの子らの母がいた。

※マルコの福音書15章40節「平行記事から」 (新約p.93下段)

15:40 また、遠くのほうから見ていた女たちもいた。その中にマグダラのマリヤと、小ヤコブとヨセの母マリヤと、またサロメもいた。

## ◎先週のメッセージの概要【罪状書きとは？】

《ついに「十字架刑」の決定がされ、ポンテオ・ピラトは、主イエス様を部下のローマ兵に引き渡しました。ここで「彼らはイエスを受け取った」とヨハネが書いていますことは、「祭司長たちの望む通りになったこと」を表わしています。

イエス様も、二人の犯罪人も自分がくりつけられる十字架を担いで、「どくろの地」へ歩いて行くことになります。この十字架については、二つの説があります。木で作られた十字架そのもの説、あるいは十字架の横木と言う説です。しかしクレネ人シモンが、イエス様に代わって担ぐのは、聖書は明確に「十字架」と書き記しています。イエス様は、悲しみの道を上られ、そして「どくろ(ゴルゴタ)」と呼ばれている場所まで歩いて行かれるのです。

ピラトは「罪状書き」を、イエス様の頭上に掲げます。普段は、罪状書きを書かないのですが、書いたからこそ、ルカはあえて書き記しているのです。

大祭司カヤパと祭司長たちが、イエス様をピラトの前に引き出した時、ピラトの最初の質問は、「あなたは、ユダヤ人の王か」でした。「そのとおりです」

この言葉は威厳と力と権威に満ち溢れていたのです。だから、ピラトは罪状書きに「ユダヤ人の王ナザレ人イエス」と書いたのです。そして、当時使われていた3つの原語で、ピラト自身が書いたことは、ほぼ間違いないことでしょう。なぜなら、「私の書いたことは私が書いたのです」と言っていますから。

この当時、パレスチナでは、公用語としてギリシャ語と、ローマ本国の言葉ラテン語が用いられていました。もちろんヘブル語も使用されていましたが、主に宗教関係者および最高議会などで使われていたようです。

一般のユダヤ人は、バビロン捕囚後、日常ではアラム語を用いていました。よって主イエス様と十二使徒たちはアラム語で会話していたのです。

ここに不思議なことがあります。それは新約聖書はすべてギリシャ語で書かれているということです。福音書も書簡もすべてギリシャ語なのです。

「ユダヤ人の王ナザレ人イエス」と、罪状書きは書かれましたが、本当に主イエス様は、その通りの者として、すなわち王として死んで行かれます。》

## ◎お知らせ

※次回礼拝は9月29日です。平常通り行ないます。また次回「聖書の学びと祈り会」は、9月25日(水)です。鈴木牧師は、9月23日(月)東京神学校(尾山令仁校長)50周年記念集会に、出席して来ます。